KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立一輪動力噴霧機
BHS606

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立一輪動力噴霧機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この噴霧機は、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付噴霧機です。
・この噴霧機は家庭用・農業用などの薬液噴霧に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。
・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

農薬使用上の留意点※

・農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
・農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、
③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

※９ページの**農薬使用上の注意**も合わせてよく読んでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。
（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　ハンドルの組立 6
　ノズルアジャスタの組立 6
　主ノズルの組立 6
　補助ノズルとホースの組立 7
正しい作業のために 8
　作業者の体調 8
　保護具 8
　薬液 9
操作方法 １０
　燃料の取扱い １０
　エンジンの始動と停止 １１
　噴霧作業 １４
　主ノズル（オプション部品） １５
点検・整備 １６
　整備の目安 １６
　点検要領 １６
故障診断と対策 ２０
保管 ２１
　長期保管（３０日間以上） ２１
別売品 ２１
仕様 ２２

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示ラベル

⚠ 警　告

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

●農薬ラベル及び取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用して下さい。

⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

各 部 の 名 称

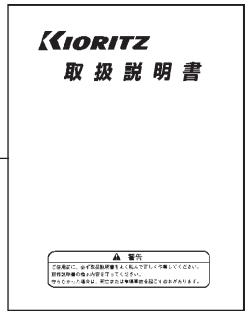
⚠ 警　告

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

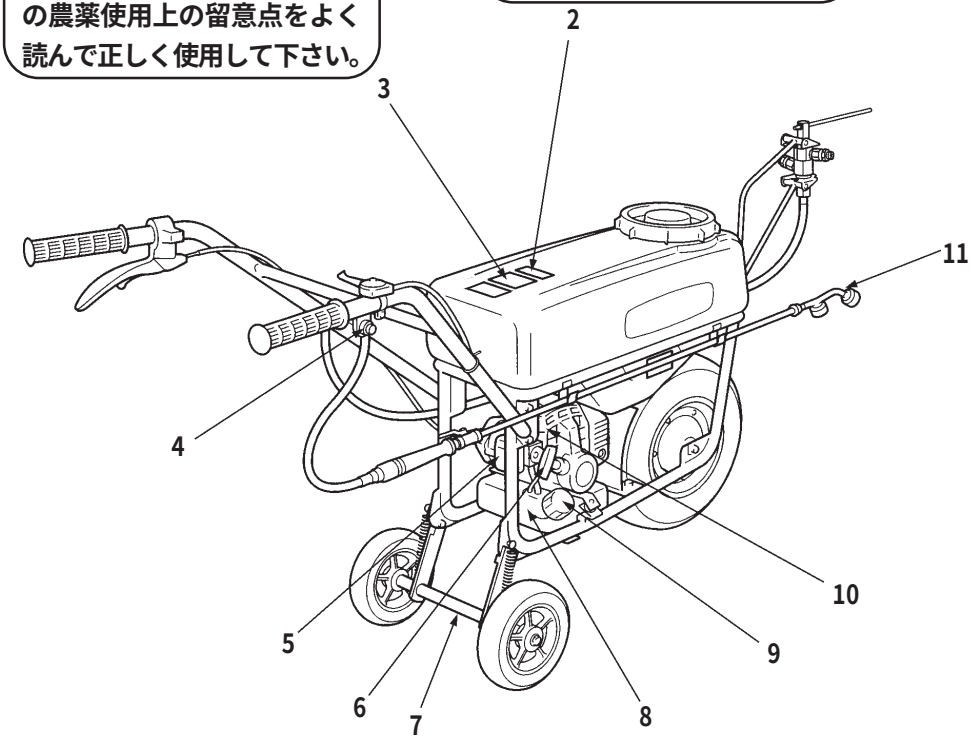
●農薬ラベル及び取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用して下さい。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

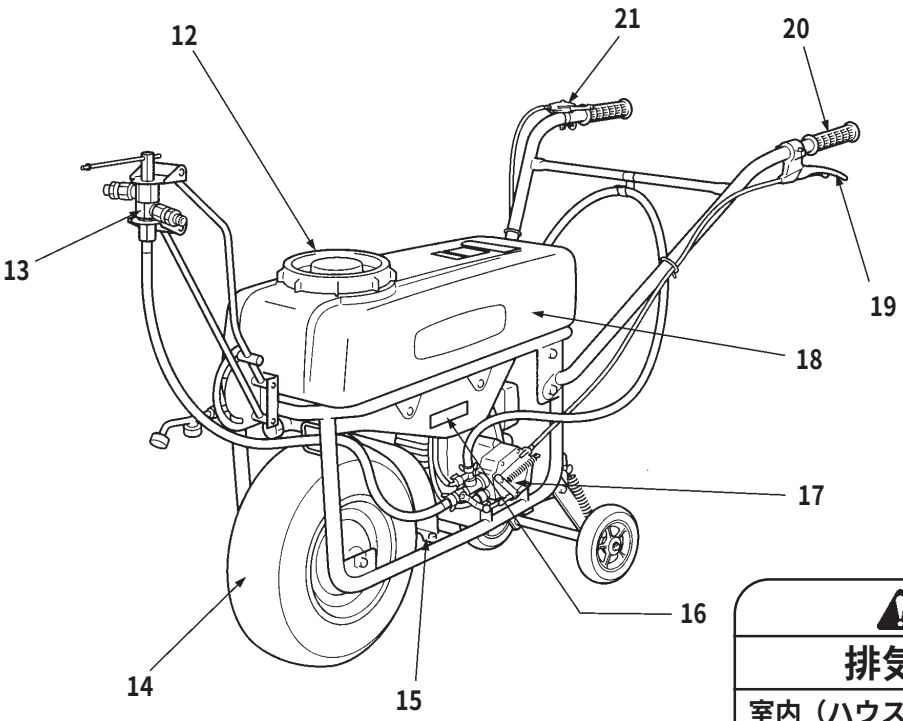


1



22

保証書



⚠ 警　告

排気ガスに注意

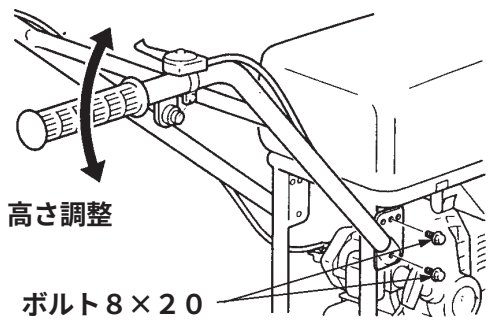
室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

各部の名称とその機能

１．取扱説明書	ー 機械をお求めになったとき必ず付属しています。 機械を使用する前に必ず読んでください。 また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．注意ラベル	ー ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
３．警告ラベル	ー 作業中は、必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。 農薬ラベルおよび取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用してください。
４．ストップスイッチ	ー エンジンを停止するときに押すスイッチです。
５．エアクリーナ	ー エンジンに供給される空気をきれいにします。
６．スタータグリップ	ー エンジンを始動するときに使用します。
７．スタンド	ー 本機を所定の場所に駐輪するときに使用します。
８．燃料タンク	ー 燃料を入れる容器です。
９．燃料タンクキャップ	ー 燃料タンクを密封するふたです。
１０．エンジン	ー 薬液ポンプを作動させる動力源です。
１１．補助ノズル	ー 固定散布の補助で散布するノズルです。
１２．薬液タンクキャップ	ー 薬液タンクを密封するふたです。
１３．ノズル取付具	ー 主ノズルを取付け、高さ、幅を調節するものです。
１４．タイヤ	ー 移動するときに使用します。
１５．スクレーパ	ー タイヤに付いた泥を落とします。
１６．警告ラベル	ー エンジンの排気ガスは有害です。 屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。
１７．薬液ポンプ	ー 薬液を噴霧するためのポンプです。
１８．薬液タンク	ー 薬液を入れる容器です。
１９．コックレバー	ー 薬液コックを開閉するレバーです。（補助散布の薬液コックとは、連動していません。）
２０．ハンドル	ー 移動や、方向変換するときに使用します。
２１．スロットルレバー	ー エンジン回転数を指で調節するためのものです。
２２．保証書	ー 製品の保証書です。大切に保管してください。

組　　立

図１



・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

ハンドルの組立

・ハンドルを本体にボルト４本（８×２０）とスプリングワッシャおよびワッシャで締めてください。（図１参照）
・ハンドルを握った状態で本体が水平になるように調整し、しっかり固定してください。
・スロットルワイヤ、コントロールケーブルを付属のバンドでハンドルに取付けてください。
不要な部分は切断してください。（図２参照）

図２

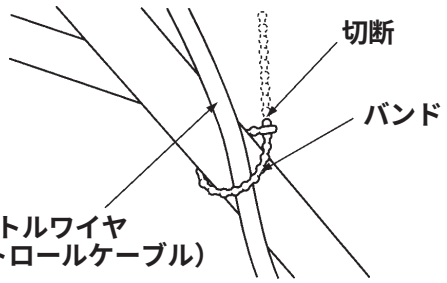
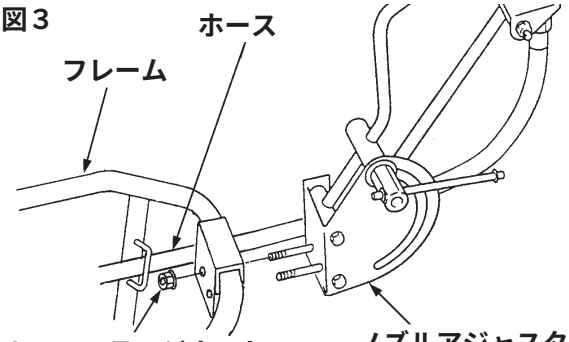


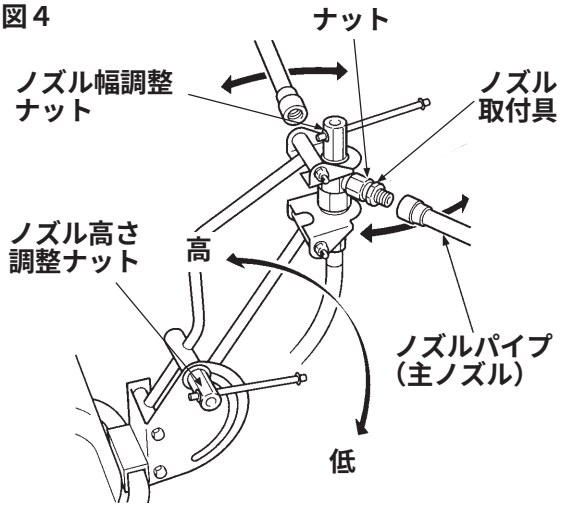
図３



ノズルアジャスタの組立

・ノズルアジャスタをフレームに６mmフランジナット２個で、しっかり組付けてください。（図３参照）

図４



主ノズルの組立

・主ノズルをノズル取付具にしっかり締付けてください。
・主ノズルの幅は、ノズル幅調整ナットをゆるめ作業に合わせて調整してください。（図４参照）
・主ノズルの高さは、ノズル高さ調整ナットをゆるめ作業に合わせて調整してください。
・調整後は各調整ナットを締付けてください。

図１

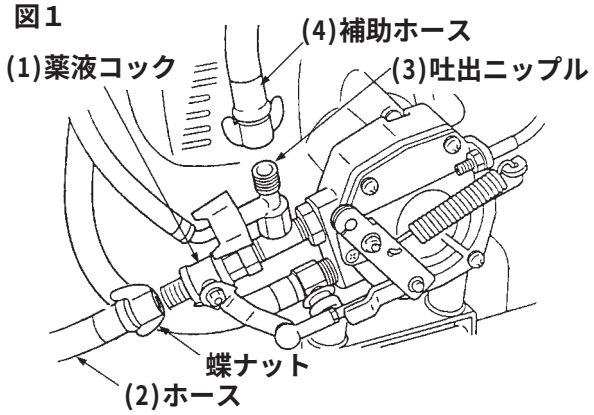


図２

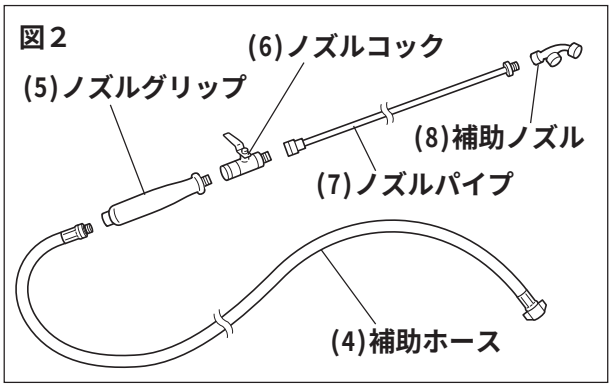


図３

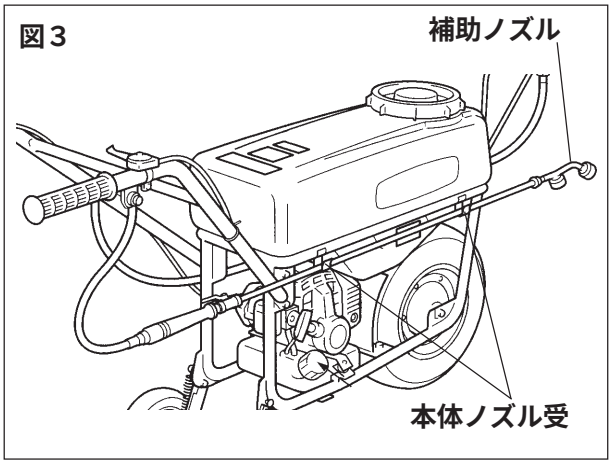
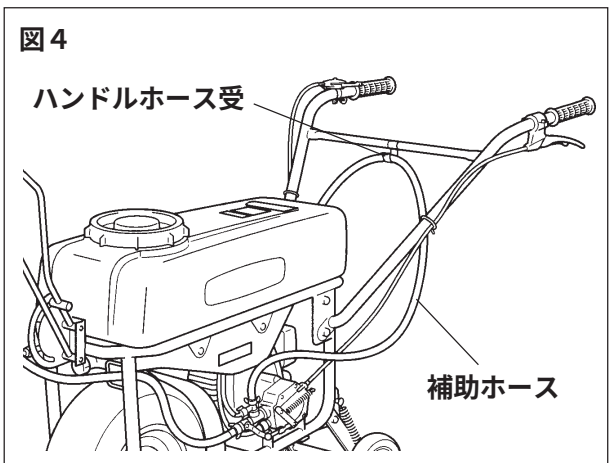


図４



補助ノズルとホースの組立

- (1)薬液コックに(2)ホースを組付けてください。（図１参照）
- (3)吐出ニップルに(4)補助ホース、(5)ノズルグリップ、(6)ノズルコック、(7)ノズルパイプ、(8)補助ノズルの順に組付けてください。（図１，２参照）
- 補助ノズルは本体ノズル受（２ヶ所）に、(4)補助ホースはハンドルホース受に取付けてください。（図３，４参照）
- 組付けが不確実ですと、薬液が漏れ薬害の原因になりますので、十分注意してください。

正しい作業のために

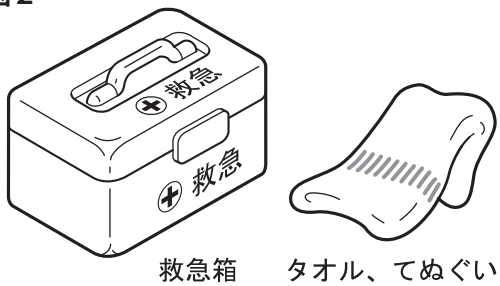
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないと、重大事故を起こす可能性があります。
- 使用する薬液に直接触れることを避けてください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

図1



図2



救急箱　　タオル、てぬぐい

図3

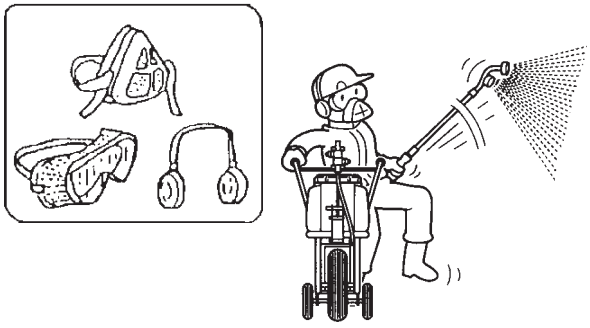
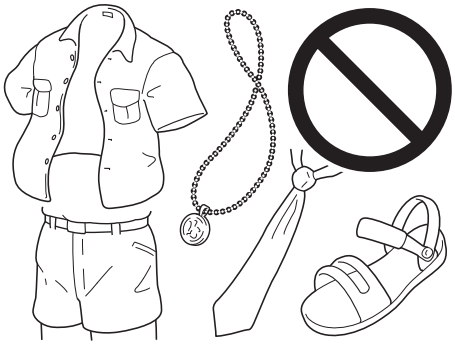


図4



⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機や薬液の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医師に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬液の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬液に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならない、耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、裾じまりや袖じまりをよくしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

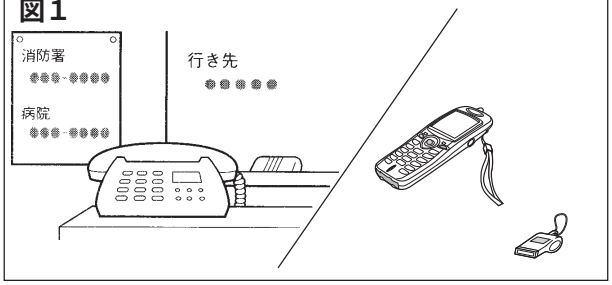
目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し頭部や首を保護してください。

図１



⚠ 警　告

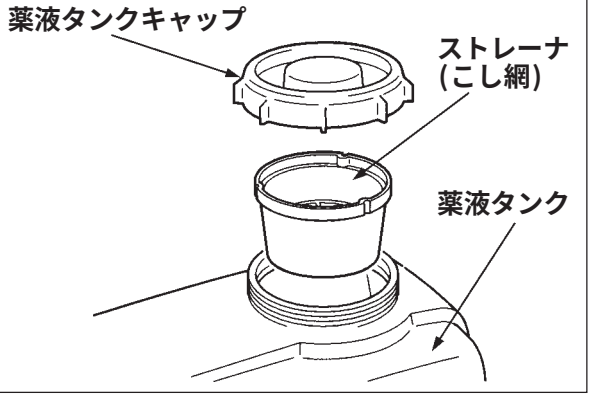
薬液ストレーナは常に薬液タンク口に正しく付けておいてください。かくはん水の勢いが強いので、運転作業中、薬液残量が少なくなると、薬液タンクキャップのブリーザ穴から薬液が漏れることがあります。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- **散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。農薬に直接触れないよう注意してください。**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。**
- **農薬が目に入らないように注意してください。**
- **誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。**
- **また、農薬の種類によっては、**
  - ☆**農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。**
  - ☆**かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。**
- **環境へ配慮した使用が必要です。**
  - ☆**防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。**
- **農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。**

図２



耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い(イヤーマフ)や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

ゴム手袋またはビニール手袋を着用してください。直接薬液に触れないでください。

脚全体の保護

滑りにくい作業用長靴を履いてください。
つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

- **保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。**
- **薬液噴霧のときは、農業用マスク（付属の防除マスクなど）を着用し薬液を吸い込まないようにしてください。**
  付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- **万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。**
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- **単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。**
- **作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。**

薬液

⚠ 警　告

薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。

- **農薬ラベルをよく読んでください。**
- **薬液はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、薬液がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。**
- **本機や薬液に関する知識を持たない人や、子供などには取扱わせないでください。**
- **薬液タンクキャップはしっかりと締め、運転時に薬液が漏れないようにしてください。**
- **薬液は必ず薬液ストレーナを使用して補給してください。(タンク内のゴミは、ノズルの詰まりの原因となります。)**
- **薬液タンクの容量は、３０Ｌです。**

重　要

本機の薬液タンク内で薬液を、直接調合しないでください。

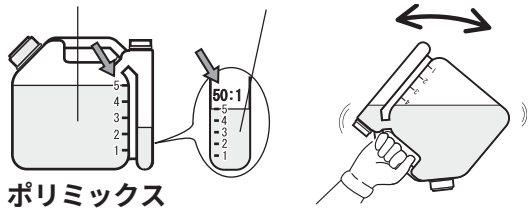
操　作　方　法

重　要

・混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。
・燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。

ガソリン	2サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	50：1	25：1
2	40	80
4	80	160
5	100	200

図1　ガソリン　　オイル



ポリミックス

図2

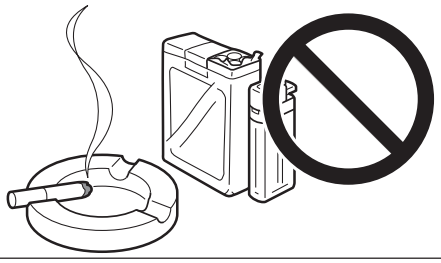
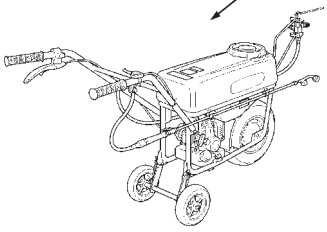


図3

燃料の補給は屋外で
行なうこと



3m以上



燃料補給地で
エンジンを
始動しないこと

燃料の取扱い

⚠ 警　告

・引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に十分注意してください。
燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
・エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
・作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から機械を離し、身体の安全を確保してください。

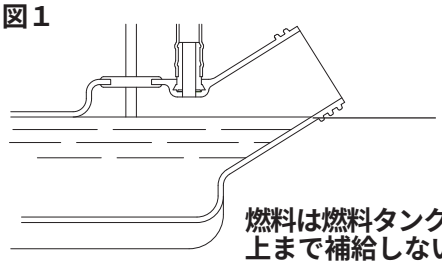
⚠ 注　意

燃料を補給する際は燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

- 燃料はレギュラーガソリン（アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます）と、2サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。
- 2サイクルエンジンオイルはＪＡＳＯ性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」はＪＡＳＯの旧規格で定められていました。やまびこ純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。
- 2サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。
  ＦＣ・ＦＤ　　；［50：1］
  ＦＡ・ＦＢ　　；［25：1］

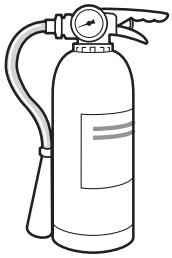
- 燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。
  屋内では燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。

図１



燃料は燃料タンクの肩口より上まで補給しないこと

図２



シャベルまたは消火器を用意する

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図３
屋内での運転禁止

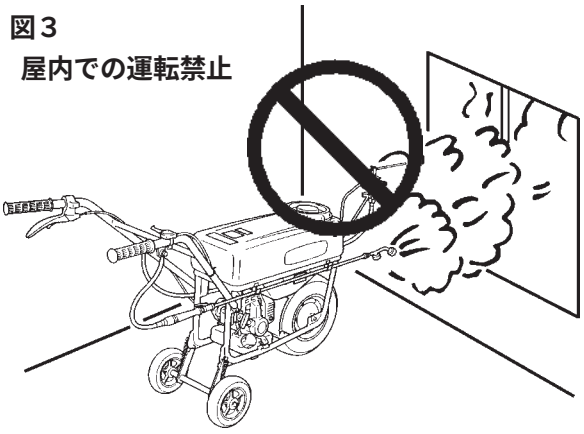


図４



- 燃料は規定レベル（燃料タンク肩口）を超えて補給しないでください（図１参照）。
- 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。また、燃料系統各部から燃料が漏れていないか確認してください。燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- 補給用タンクは火気のない日陰に保管してください。
- エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。
- 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
  草木などに類焼しないよう注意してください。
  シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

エンジンの始動と停止

⚠ 注　意

- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
  燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- 機械を始動する前に、薬液タンクキャップをしっかり締めてください。
- 機械の周囲は十分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- 機械は地面にしっかりと押えて始動してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

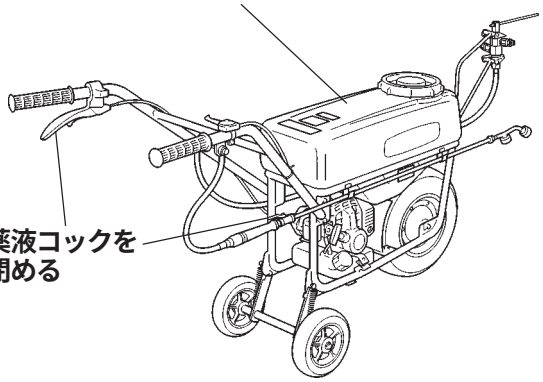
重　要

- エンジンを始動する前に、必ず薬液タンクに薬液、あるいは清水を入れます。
- 本機の防振構造はエンジン、薬液ポンプを防振ゴムで浮かせている構造ですので、エンジン始動時のリコイル操作は必要以上の力を加えず操作してください。
- スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。
  引き紐の２／３以上は引出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。

図1

始動

タンクに薬液を補給する



薬液コックを
閉める

図2

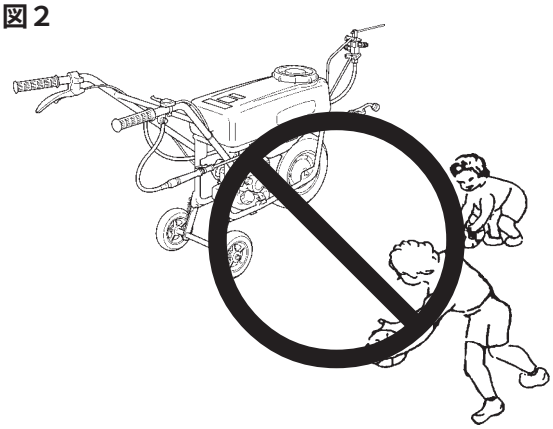


図3

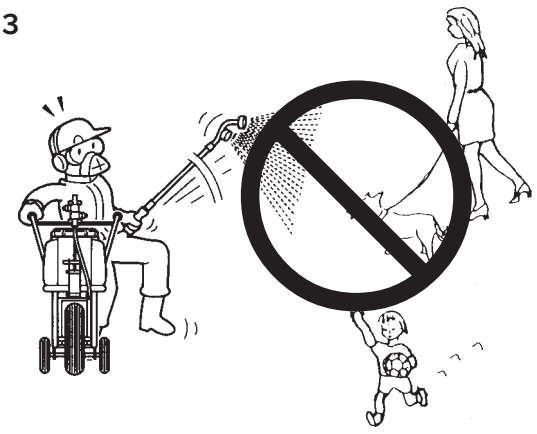
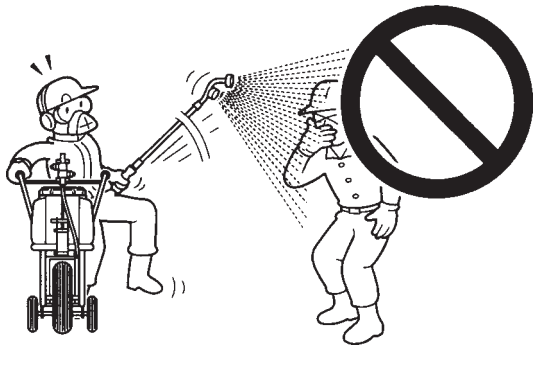


図4



重　要

- 薬液コックレバーは補助ノズルの薬液コックとは連動していません。
- 薬液がノズルから出なくなったらすぐにエンジンを停止してください。薬液タンクがカラになったらエンジンを運転しないでください。

- エンジンを始動するときはたいらな地面で、薬液タンクに薬液あるいは清水が入っていることを確認し、薬液コック（２ヶ所）を閉じてください。燃料パイプが折れ曲がっているときは、エンジンを始動しないでください。
- この機械を使用する場所をチェックしてください。傷害や機械を損傷させる障害となる物は作業する場所から取除いてください。
- 足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。
- 機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。
- ノズルを人や動物へ向けないでください。
- ノズルグリップは、いつもしっかり握ってください。
- この機械を扱う際、高温による火傷を防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。
- 全装備での機械操作時は特にバランスを失わないように注意してください。
- この機械は、真直ぐに立てた状態で使用するよう設計されており、使用時および運搬時に横にしたり、極端に傾けたりして、燃料や薬液が漏れないようにしてください。
- 夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、この機械を使うことを避けてください。
- マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、エアクリーナの空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。

図１

薬液コック閉：薬液コックレバーを握る
（自動的に固定します）

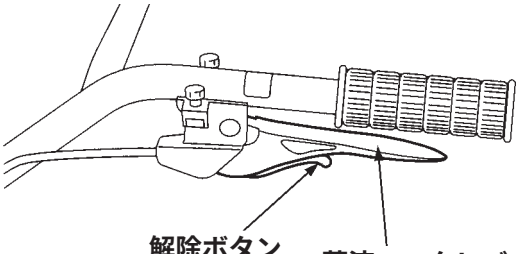


図２

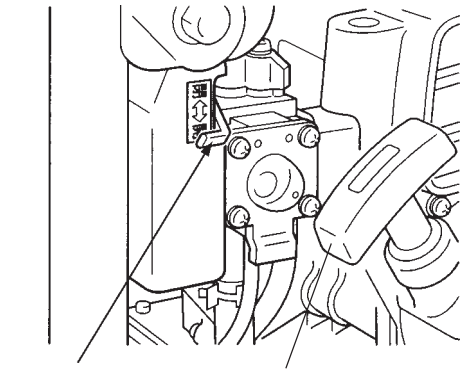


図３

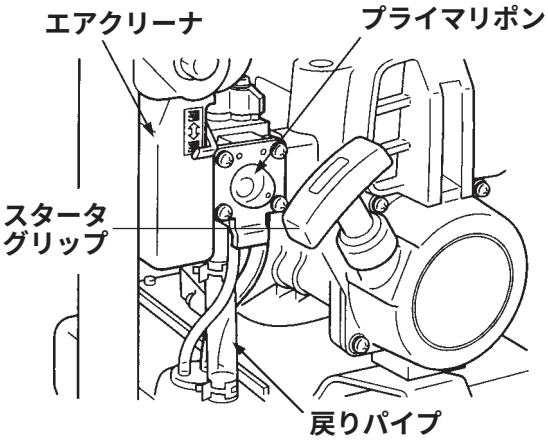
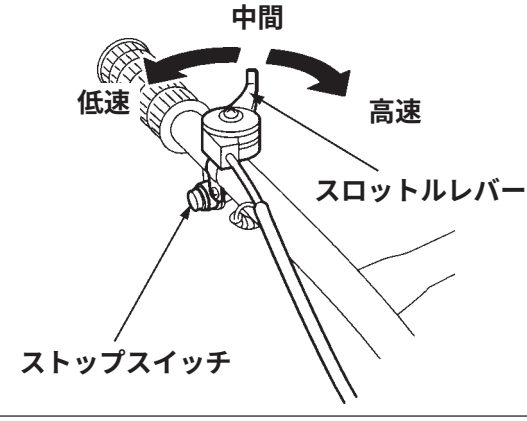


図４



エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。

エンジンが冷えている場合の始動

- エンジンを始動させる前に、薬液コック（２ヶ所）を閉じてください。（図１参照）
- 薬液ポンプの破損防止のため、薬液タンクがカラの状態では、エンジンを始動したり、運転をしないでください。
- チョークレバーを「閉」の位置にしてください。
- スロットルレバーを中間位置にしてください。（図４参照）
- 燃料戻りパイプに燃料が見えるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。
- 吸い込み確認後、機械をしっかり押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
- 爆発音がしたらチョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを除々に「開」に戻してください。
- エンジンを始動させ、作業前に２～３分間低速で運転して、暖機してください。

エンジンが暖まっている場合の始動

- スロットルレバーを[低速]位置にしてください。
- チョークレバーを「開」の位置にしてください。
- スタータグリップを２～３回引き、エンジンを始動させてください。
- チョークは使わないでください。

- ４回スタータグリップを引いても、エンジンが始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してください。

エンジン停止

- スロットルレバーを[低速]位置にし、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。
- ストップスイッチを押してください。（図４参照）
- 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。
- エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。エンジンは失速し停止します。

※ ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合、機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。

図１

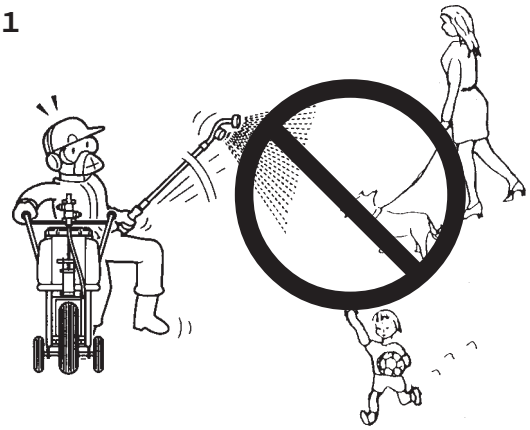


図２

薬液コック閉：薬液コックレバーを握る
（自動的に固定します）

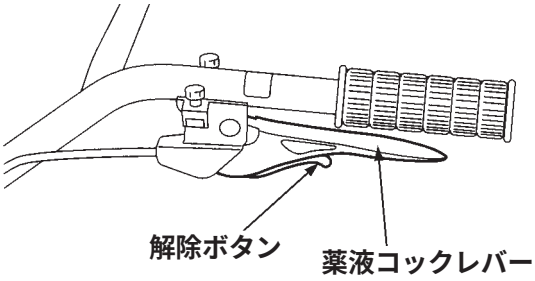


図３

薬液コック開：薬液コックレバーを放す
（薬液コックレバーを軽く握り
レバー中央部の解除ボタンを
押して手を放す。）

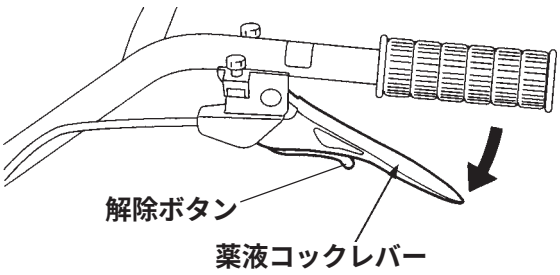
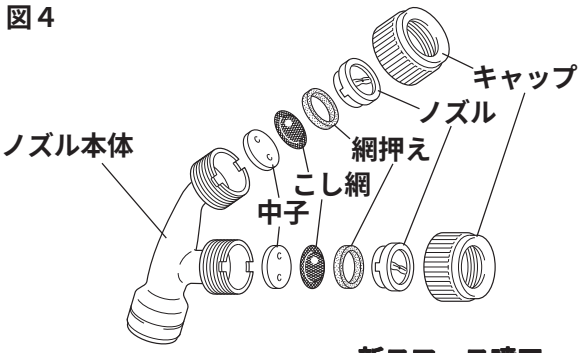


図４



新スワース噴口

付属標準ノズル

ノズル圧力	ノズル吐出量
1.0 MPa	2.4 L/min

噴霧作業

⚠ 警　告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
- 薬液噴霧のときは、農業用マスク（付属の防除マスクなど）を着用し薬液を吸い込まないようにしてください。付属の防除マスクは防毒マスクではありません。

傷害事故を防止するため

- 薬液を被ることのないよう、風の強い日や雨の日は機械を使わないでください。
- 仕事を始める前に、風向きをみてください。周辺にドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは薬液による傷害を起こすものがあるときには、薬液を噴霧しないでください。
- 噴霧は、風下に向かって行なってください。
  薬液の分散による損失を少なくして薬液の噴霧効率を高めるため、風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで作業してください。
- 薬液噴霧作業中は喫煙、飲食をしないでください。農薬を吸引したり、食べ物に付着した農薬が体内に入る恐れがあります。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

エンジンの操作

- 薬液コックは噴霧作業を始めるまで必ず閉じておきます。薬液系統に漏れがないか、接続状態を確認してください。
- 補助散布はスタンドを立て、機体を安定させてから行なってください。
- 暖機運転が終わってからスロットルレバーを上げエンジン回転を上げて、薬液コックを開いて作業に入ります。（本機は、クラッチ伝達方式です。動力を完全伝達できるエンジン回転で使用してください。）
- ハウス内噴霧の際は本機を屋外に定置してご利用ください。室内でのエンジン運転はしないでください。

補助ノズル

付属の標準ノズル以外のノズルもご利用いただけますが、吐出圧力と吐出量を標準のものと合わせてください。

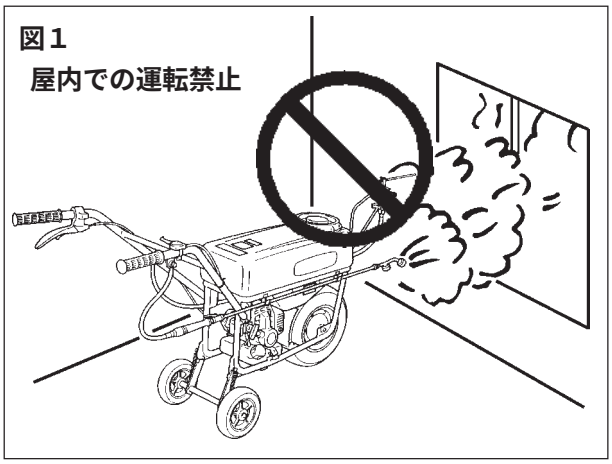


図１
屋内での運転禁止

主ノズル（オプション部品）

この動力噴霧機は主ノズルセットがオプション部品となっております。使用用途に合わせてお買い求めください。主ノズル準備の際にはノズルの性能が次のものを標準にご準備ください。

ノズル性能

ノズル圧力	ノズル吐出量
1.0 MPa	1.5～6.0 L/min

吐出量が大きい多口ノズル、大形ジェットノズルなどを付けると噴霧圧力が所定の圧力にならずよい噴霧の状態が得られないことがあります。
上に示されたものを標準ノズルとしてください。

- この機械で屋外ではもちろんのことハウス内散布などにも長さ１００mまでのホース(内径8.5mm)を使用することができます。
- ハウス内散布の際は本機を屋外に定置（固定）してご利用ください。この場合ノズルと噴霧機の高低差２０mまでの範囲でご利用くだい。
- 屋内（ハウス内）でのエンジン運転はしないでください。

点　検・整　備

整備の目安

⚠ 注　意

- 点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。
- 発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。

重　要

年単位および月単位の整備に要する日数間隔については実際の使用と経験から判断してください。

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	点検 / 交換	17	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	17		●	
燃料パイプ	点検	―		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	17		●	
キャブレタ	点検	19			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	17	●		
マフラ	点検、増し締め / 清掃	17	●		
リコイルスタータ	点検 / 清掃	―	●		
燃料系統	点検 / 修理	16	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	―	●		

重　要

- 作業が終了した後は、本機をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備をしておくことが、次回の噴霧作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
- 使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
- 燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
- スパークプラグは締付け過ぎないでください。
- 除草剤噴霧にご使用のあと一般防除作業にご使用になるときは、薬液タンクほか薬液系統を十分に清水で洗ってから作業してください。
- ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

点検要領

燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

- ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
- 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
- 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

図１

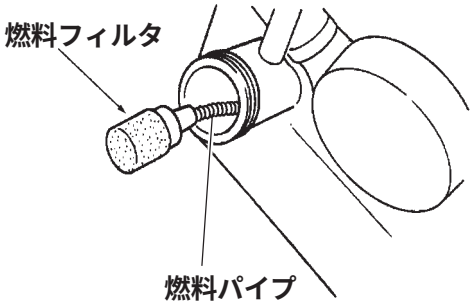


図２

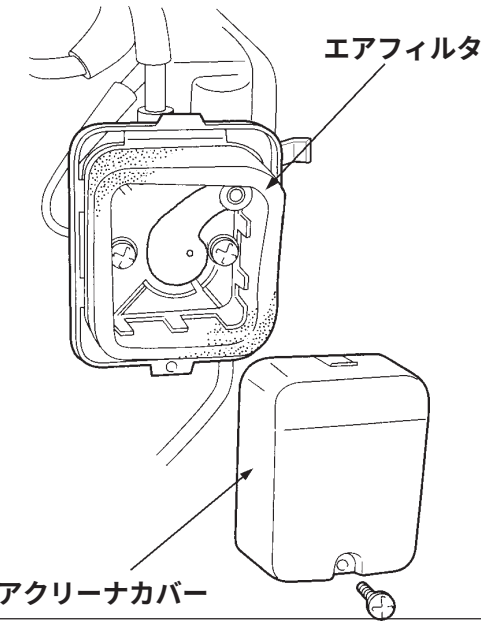


図３

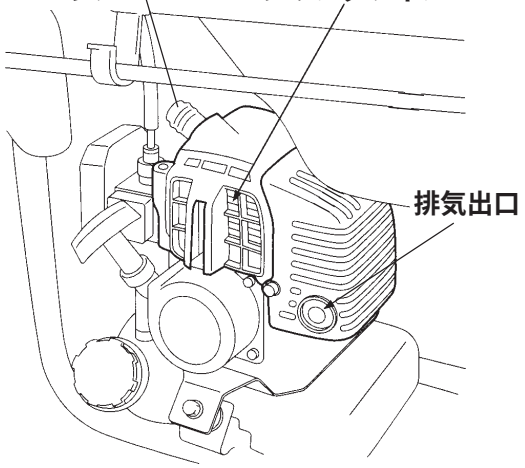
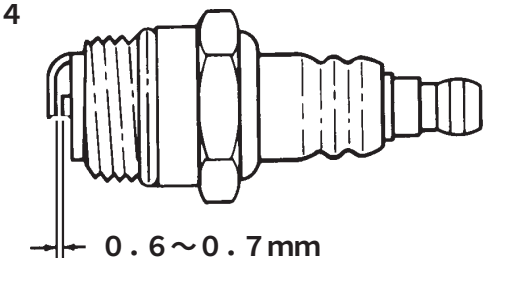


図４



燃料フィルタの交換

- 燃料タンクキャップを外します。
- 針金などを使用して、燃料タンクの給油口から燃料タンク内にある燃料パイプ（ゴムパイプ）を引き上げます。
- 燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタを取付けます。（図１参照）
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。

エアフィルタの清掃

- チョークを閉じてから、エアクリーナカバーを外してエアフィルタを取外します。（図２参照）
  エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤を使って洗ってください。洗剤を使用した場合は、十分に水洗いをし、よく乾かしてください。
- エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

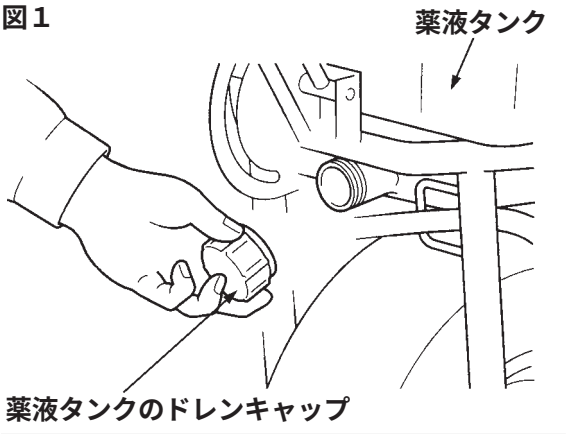
マフラとシリンダフィン

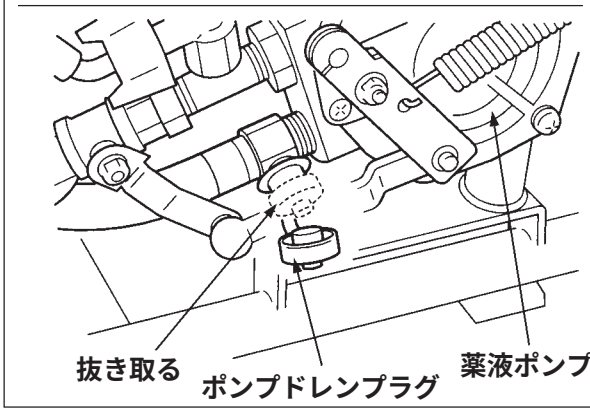
- マフラのゆるみはガス漏れ、タール漏れを起こし、思わぬ事故につながりますので、増し締めしてください。
- 排気出口のカーボンを取除いてください。
  エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
- シリンダフィンは常に清掃してください。
  シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。
  シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

スパークプラグ

- 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
- 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。（図４参照）
- スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
  参考：締付けトルクは１５～１７N・m
  (150～170 kgf・cm)です。

図１

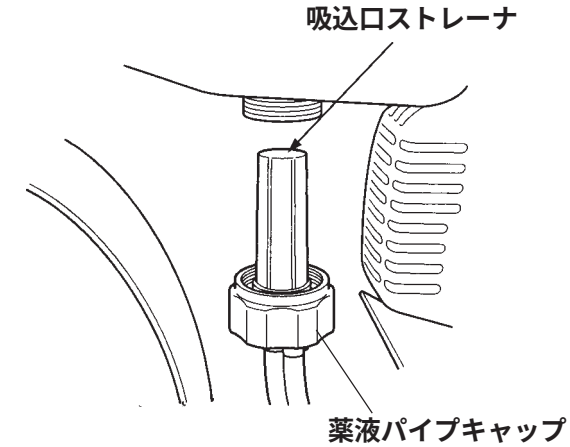




薬液タンクの清掃

- その日の作業が終わったら、清掃してください。
- 薬液タンクに水を入れ、エンジンを始動してください。
- ノズルコックを開いて２～３分間ノズルで噴射し、噴霧装置の内部を清掃してください。
- 洗浄後は薬液タンクのドレンキャップを外し、薬液タンク内の洗浄水を完全に排出します。
- ポンプドレンプラグを外し、薬液ポンプ内の洗浄水を完全に排出します。
- 排出後、ポンプドレンプラグを元通り取付けてください。
- 機械に付いた薬液も洗い流してください。

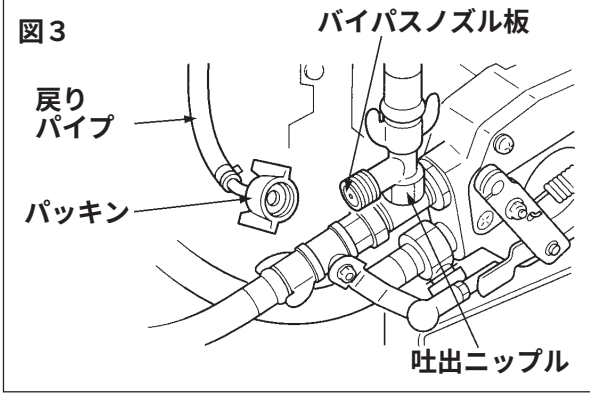
図２



吸込口ストレーナの清掃

- 吸込口ストレーナが“ゴミ”などで詰まりますと吐出不良など不具合が発生しますので時々薬液パイプキャップを外し、吸込口ストレーナを清掃してください。

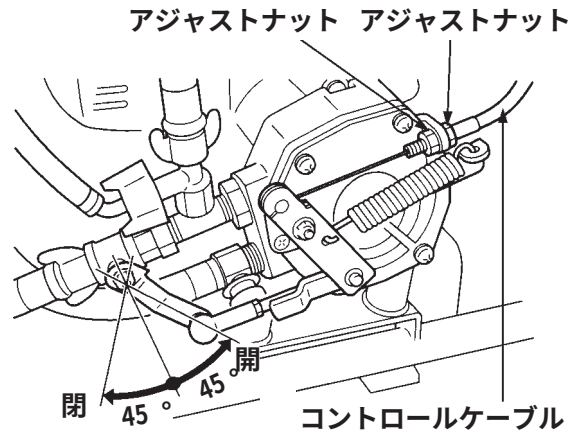
図３



バイパスノズル板

- 薬液がタンク内でよく“かくはん”されないときはバイパスノズル板をきれいにしてください。
  水和剤などご使用の際は特にご注意ください。
  （図３参照）

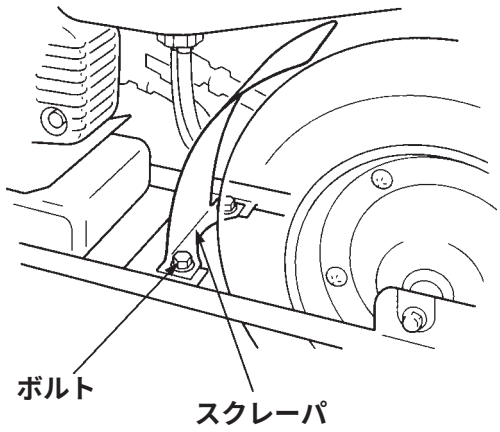
図１



薬液コック（主ノズル用）

- 薬液コックが完全に“閉”または“開”にならないときはコントロールケーブルのアジャストナットを調整してください。
- 調整後はアジャストナットをしっかり締付けてください。

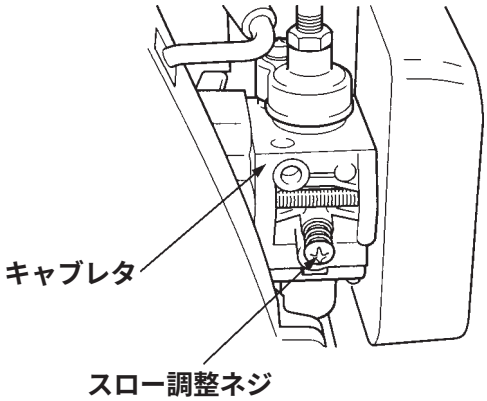
図２



スクレーパ

- タイヤに付着した泥を落とすものです。タイヤの空気圧、薬剤の質量などにより隙間が変化しますのでボルトをゆるめ４～５mm（タイヤに接触しない位置）の隙間になるように調整してください。

図３



キャブレタ

- 必要でない限り、キャブレタを調節しないでください。
- 低速回転の調整が必要なとき、キャブレタのスロー調整ネジを回してください。（図３参照）反時計方向に回すと、エンジン回転は低下します。
- 調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。
- 機械を長い間使わないときは、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

故障診断と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

- **燃料タンクに燃料が入っていること。**

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃／交換 ●清掃 ●販売店へ
↓	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
↓	↓ →	プラグが燃料で湿っている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
↓	プラグコードの先端で発火する ↓ →	プラグコードの先端で発火なし	●電気的故障	●販売店へ
↓	スパークプラグは発火する ↓ →	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン(炭素)の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない	↓		●エンジン内部の故障	●販売店へ
エンジンは始動する →	持続しない、または加速不十分 ↓		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●シリンダフィンの詰まり ●排気口／マフラの詰まり	●清掃／交換 ●清掃／交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
↓	細かい霧にならない ↓		●ホースに穴や裂け目がある ●本機に適当でないノズルを使用している(吐出量の大きいノズル) ●バイパスノズル板の詰まり	●交換 ●交換 ●清掃／交換
↓	薬液が全く出ない		●ゴミ・異物による薬液系統の完全な詰まり ●薬液タンクに液がない ●薬液ポンプの破損	●清掃 ●補給 ●修理

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（３０日間以上）

機械を長期間（30日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１．薬液タンクとホースを清水で清掃してください。
　薬液タンク内の洗浄水はドレンキャップを外して排出してください。
　ポンプドレンプラグを外し、薬液ポンプ内の洗浄水も完全に排出してください。

２．本書に定められた定期的な注油と点検をしてください。機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は増し締めしてください。

　Ａ．必要ならば掃除をし、修理をしてください。
　Ｂ．サビ止めに、金属部分には薄く油を塗ってください。
　Ｃ．ホースとパイプを取外してください。

３．燃料タンクを完全にカラにしてください。
　キャブレタ内の燃料も排出してください。

４．スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。

　Ａ．スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
　Ｂ．スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
　Ｃ．スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。

５．スパークプラグを取付けてください。
　（スパークプラグキャップは接続しないでください。）

６．機械を乾かし、子供の手の届かないホコリの少ない場所に保管してください。

別　売　品

● ポリミックス （５Ｌ，２Ｌ）

・ご購入の際は製品をお買い求めの販売店にご用命ください。

仕　　様

項　　目	単　位	BHS606
質量（ホース類、燃料除く）	kg	１８．０
容量 　燃料タンク 　薬液タンク	 L L	 ０．９ ３０
外形寸法（ホース類除く） 　長さ×幅×高さ	 mm	 1,595 × 525 × 760（ハンドル標準高さ）
エンジン 　形式 　排気量 　最大エンジン回転数（締切時） 　アイドリング回転数 　クラッチ作動開始エンジン回転数 　キャブレタ形式 　点火方式 　スパークプラグ 　始動方式 　動力伝達方式	 mL r/min r/min r/min	 空冷２サイクル単シリンダ ２２．８ 7,500 2,500 ～ 3,000 3,600 ～ 4,000 ダイヤフラム式 フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ａ リコイルスタータ 自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ＦＣ・ＦＤ　　；　[５０：１] ＦＡ・ＦＢ　　；　[２５：１]
薬液ポンプ 　形式 　散布量（標準の補助ノズル使用） 　圧力（締切）	 L/min MPa(kgf/cm²)	 渦流式 ２．４ １．０　（１０）
ノズル 　主ノズル 　補助ノズル	 － L/min	 オプション部品です。用途に合ったノズルを準備してください。 ２．４（新スワース噴口１．０ MPa のとき）
ホース 　内径 　長さ	 mm m	 ８．５ １．５
付属品 　ホース・ノズル関係 　ソケットレンチ（１３×１９） 　スパナ（８×１０） 　防除マスク 　取扱説明書	 個数 個数 個数 個数 個数	 一式（主ノズルはオプション） １ １ １ １

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

898 512-1151 3
X750 108-090 3　　1207n 0290 ES

© 2000 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。